文協絵画教室が生徒募集教＝児童向け、美術親しむ場に

酒井町子さん、金子謙一さん

□「今じゃニューヨークを拠点に活躍する大岩オスカールや工藤ジェームズも、この教室の出身者。何せ第５７回ですから、有名になった人もたくさんいますよ。でもプロの画家を育てる教室じゃなくて、あくまで情操教育。でも幼い頃に基礎が付いている人は、大きくなってその道に進むのが容易なんでしょうね」。そう呼びかけるのは、文協美術委員会の金子謙一さんだ。

□新年も『第５７回児童絵画教室』が1月１４日～１８日の５日間、文協ビル（Rua Sao Joaquim, 381, Liberdade）で開催されるにあたり、生徒募集に来社した。期間中、午前９時～正午まで行われ、画家が指導に当たる。参加費２５０レアル（文協会員は割引あり）。希望者は1月１１日までに申し込むこと。

□昨年は２０人程度の参加者。５～１５歳を対象に絵画を学ぶ。指導は五木田綾子さん、酒井町子委員長ら。教室で制作された作品は１９、２０の両日午前１０時から午後５時まで文協ビル内で展示される。

□案内に来社した酒井委員長は「ぜひお子さん、お孫さんに参加させ、充実した情操教育をさせましょう」と参加を呼びかけた。申し込みは文協事務局（電話＝１１・３２０８・１７５５、メール＝matsuri@bunkyo.org.br）まで。

□関連コラム□大耳小耳

□文協美術委員会の金子謙一さんは、「絵画教室が文協に行く前は、パウリスタ新聞の２階サロンで始まったんですよ。聖美会の仲間が新聞社にいましたから。最盛期は８０年代で約３００人が参加して、文協大サロンが一杯になった時代もあった。デカセギが始まって一気に減ってしまった」と振り返った。たまたま来社している最中に、同船者と再会。「最近、旧友４０人ほどに『元気だったら手紙を返して』との通信を送ったら、３人しか返ってこなかった」とも。でも、それゆえに聖美会の生き字引としての存在は、さらに貴重さを増している。